

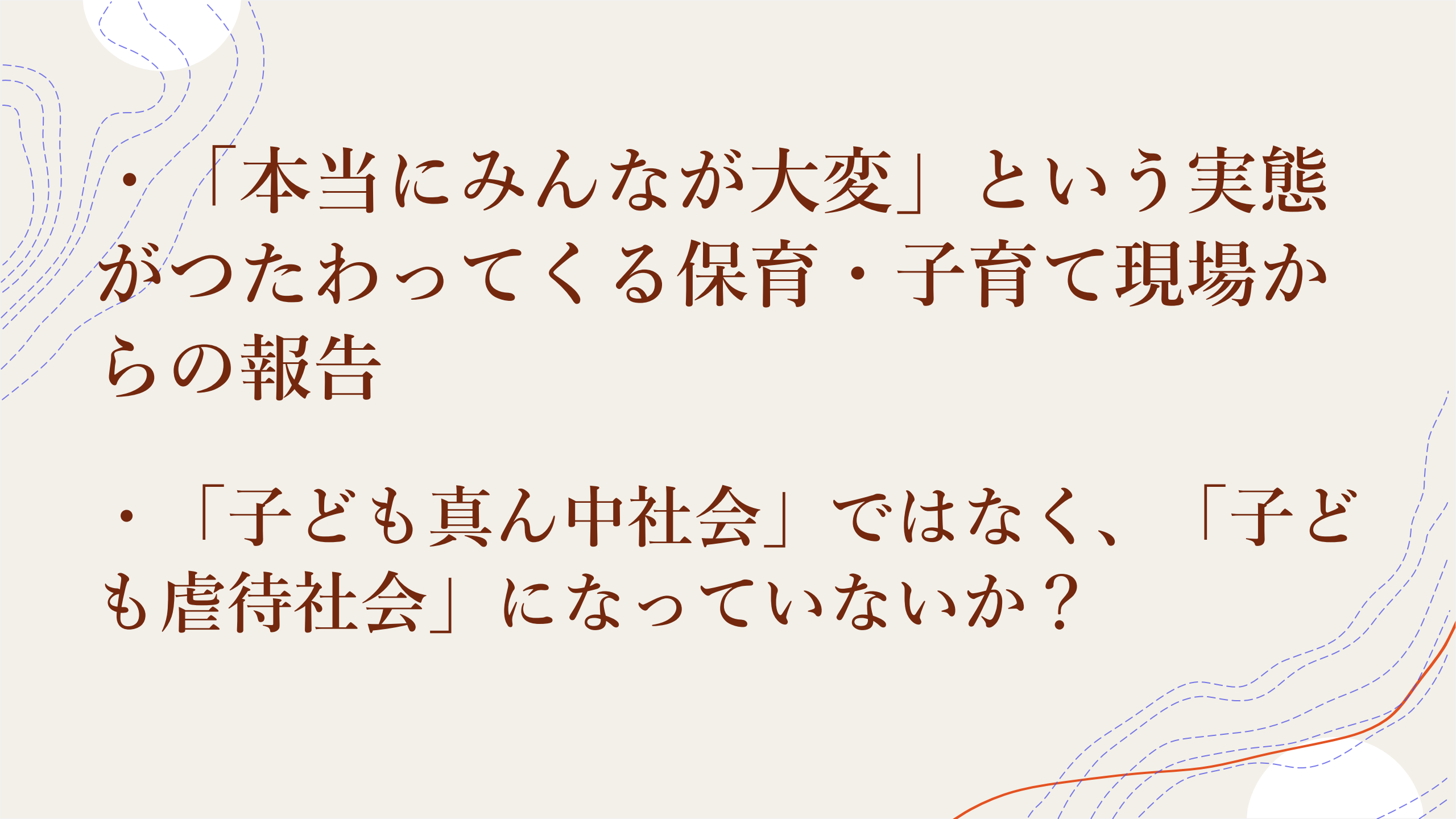
「みんなが大変！」

から

「みんながいるから大丈夫！」

へ

声を上げよう・声を聴きあおう



- ・ 「本当にみんなが大変」という実態
がつたわってくる保育・子育て現場か
らの報告

- ・ 「子ども真ん中社会」ではなく、「子ども虐待社会」になっていないか？

・子育て家庭も、保育職員も、保育所も、子どもも……みんなを大変にしているのは？

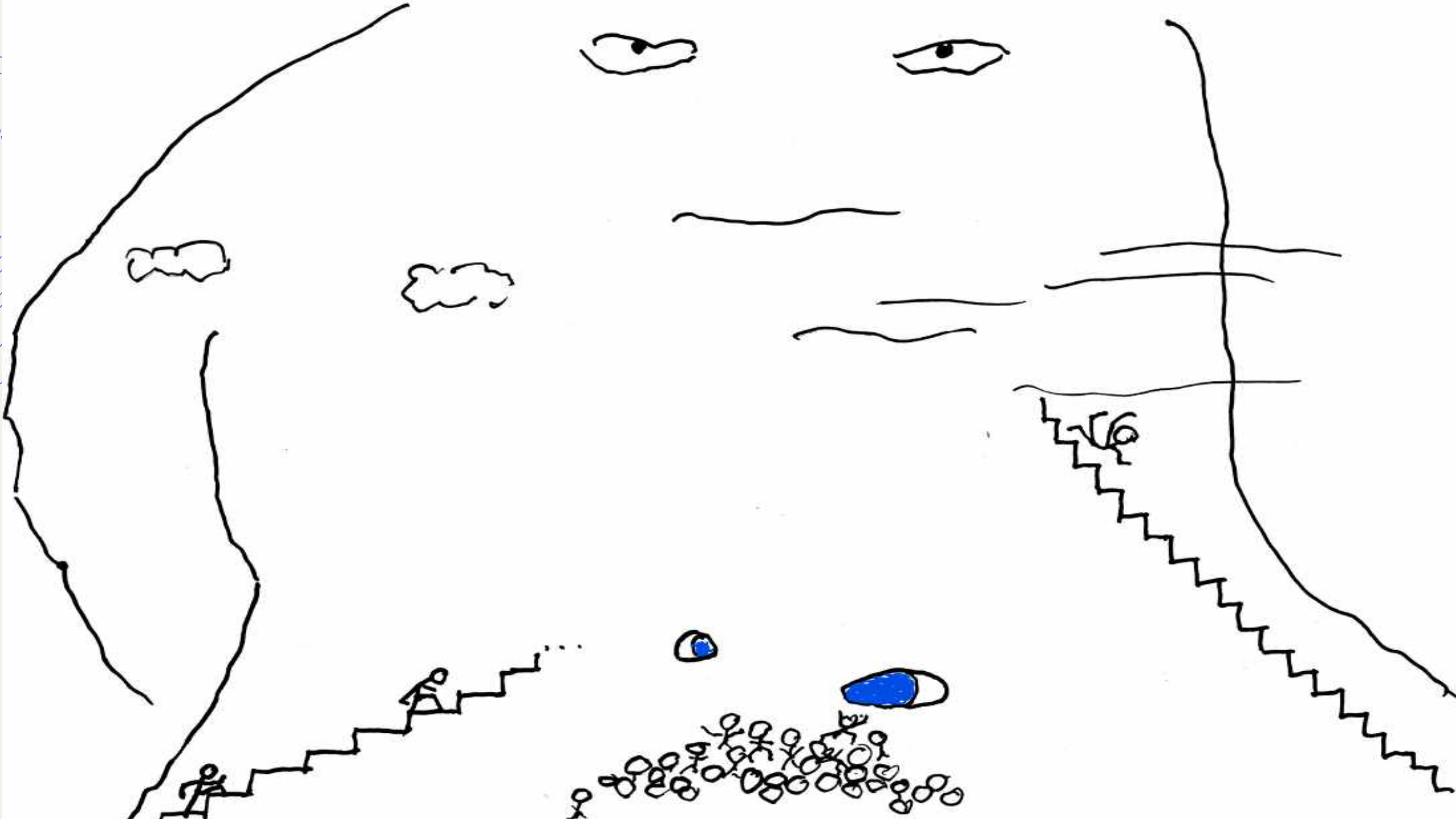
子育て・保育の政策がおかしい！

おかしいことを棚に上げて、「現場で何とかしろ」と押しつける。

・「自分がもっとがんばらなくっちゃ」

責任感・使命感から「大変さ」を引き受ける
しなくてはいけないこと、足りないことがたくさん
……それがどんどん増えてゆく
仕事は増え、使える時間は減ってゆく

いつになったら、どうすれば、自分の人生、ゆとり
が生まれるのだろうか？



・ワンオペ保育・ワンオペ育児はムリ という事実・真実から出発しよう

子どもも大人も「社会人」——他の人たちとのつながりの中でしか成長できず、人間になれない。

「ひとりでがんばる」は貧困の証明
ひとりじゃない場を私たちはどれだけ持っている
だろうか？

「すれちがい社会」の怖さ

・「一緒にいる、集まる、つながる」

そばに誰かがいてくれるだけで安心することがある。

家庭はもちろんそういう場だけれど、それだけでは足りない

保育所の送り迎え、そのひと時でホッとする……

・つながるための大変さはたしかにあるけれど、つながることによって「大変さ」をみんなのものにするチャンスが生まれる。

みんなが自分の大変さを放り出せる場があれば肩の荷がおりる。

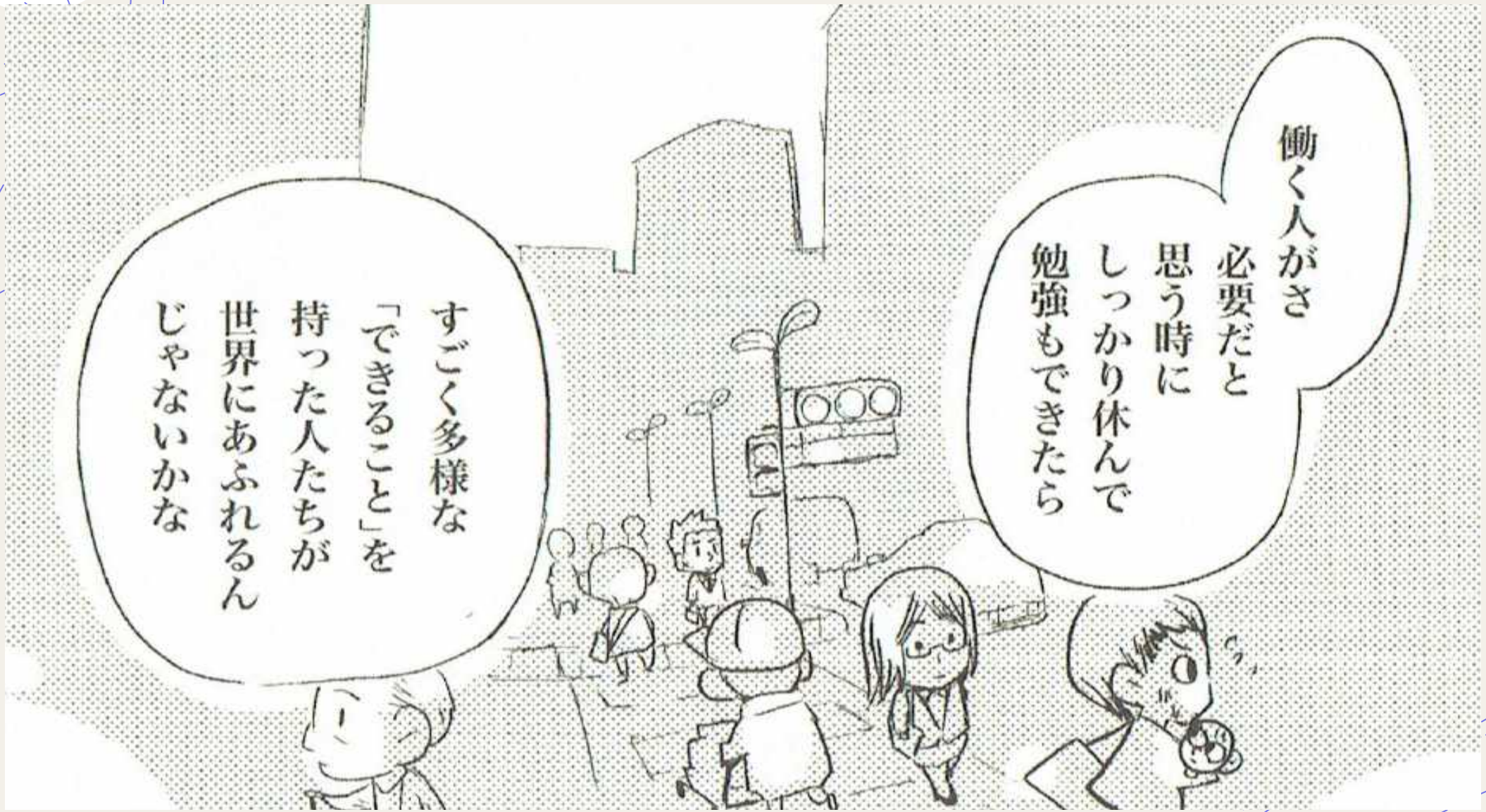
集まるため、つながるための大変さはムダな時間ではない！

・「一人で悩まない、一人で悩ませない」を合言葉に

「こんなに大変、これだから大変」とつたえあえるチャンスや状況をつくる

声を聴きあえるアート

保育・子育ての場は「声を聴きあうアート」が日々生まれる場



すごく多様な
「できること」を
持った人たちが
世界にあふれるん
じゃないかな

働く人がさ
必要だと
思う時に
しっかり休んで
勉強もできたら

(巳年キリン『働く、働かない、働けぽ』)

人と人がつながり、「みんながいるから大丈夫」と思える社会をつくるために、誰もが持っている
アートを活かそう

署名運動はどんなアートにできるだろうか？